

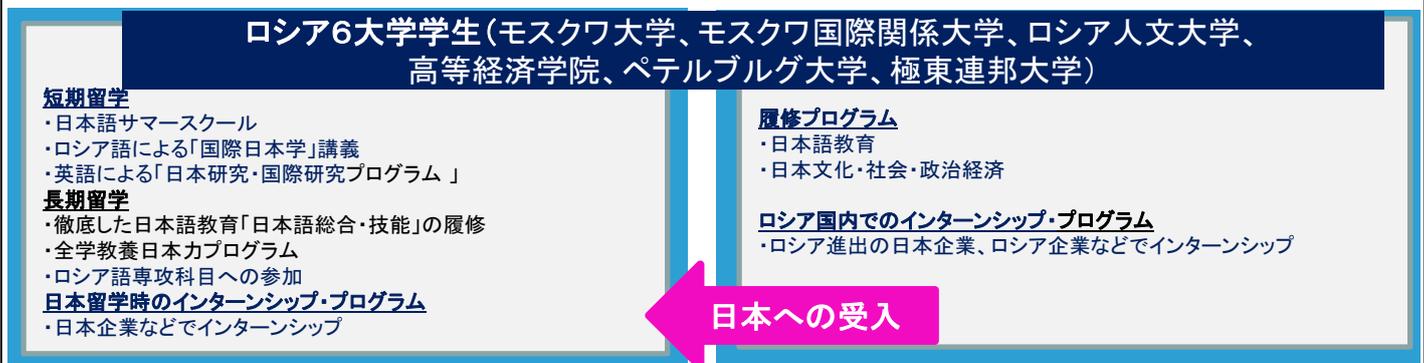
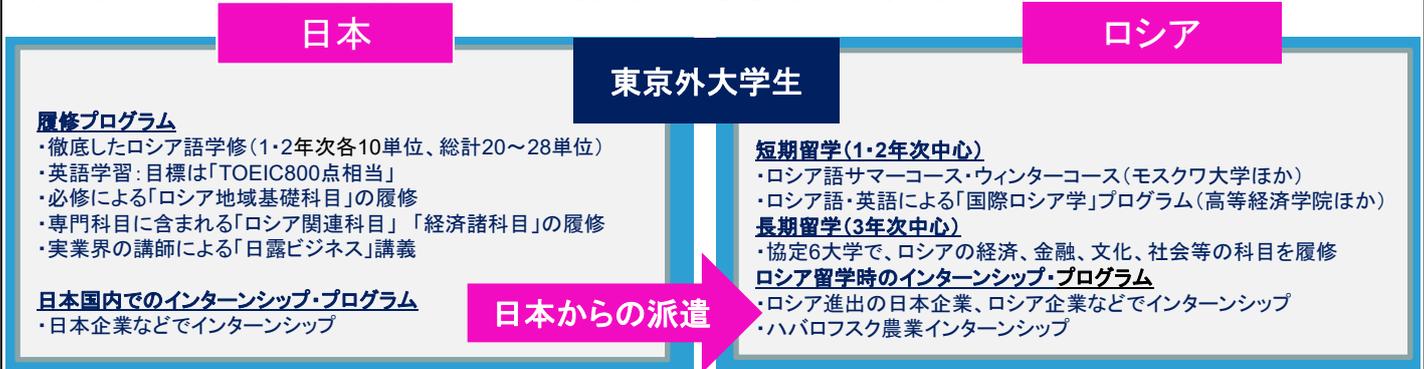
# 大学の世界展開力強化事業(平成29年度選定) 東京外国語大学 取組概要

## 【事業の名称】(選定年度29年度・タイプA(ロシア))

日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUFSD日露ビジネス人材育成プログラム

## 【事業の概要】

「日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUFSD日露ビジネス人材育成プログラム」は、東京外国語大学とロシア6協定校(モスクワ大学、モスクワ国際関係大学、ロシア人文大学、高等経済学院、ペテルブルグ大学、極東連邦大学)が日露ビジネス人材の育成のため、共同で行う取組である。本取組は、短期留学、長期留学、インターンシップの3種の交流プログラムからなり、各大学の「ロシア関係教育」、「日本関係教育」、「実学的な経済関係教育」を多角的多面的に強化する。



## 【交流プログラムの概要】

- 1) 短期留学プログラム: 学部1年次、2年次の学生を中心とした、「ロシア」「日本」「日露関係」についての教育の基礎を固める、2～4週間のプログラム
- 2) 長期留学プログラム: 学部3年次の学生を中心とした、「ロシア」「日本」を専攻する学生がロシア・日本の経済・社会・文化を専門的に学ぶ約1年間のプログラム
- 3) インターンシップ・プログラム: ロシア、および日本において、本学学生、ロシア6協定校学生双方が参加する多様な分野における就業体験プログラム

## 【本事業で養成する人材像】

本事業では、日露の連携強化をめざし、日露ビジネスで活躍する次のような能力を備えた人材を育成する。

<言語力>(履修と留学を通じ)ロシア語・英語・日本語を高いレベルで運用できるトライリンガル能力

<ロシアと日本についての教養・知識、経済についての知見>(それぞれの大学、および留学先での履修を通じ)日露双方の歴史・社会・文化・経済に関する知識と教養、及び経済・統計・会計などビジネスに不可欠な基礎的知識

<調整力・行動力>(留学やインターンシップを通じ)多様なステークホルダーの要請を調整し諸課題を解決するために必要な粘り強さ、他者を尊重する想像力・協調力、自主性、創造力

これらをバランスよく育み磨いていくことにより、卒業後、多様なビジネス分野に関わる応用力を備えた卓越した日露ビジネス人材を育成し、これにより日露の連携強化に貢献する。

## 【本事業の特徴】

・ 短期・長期留学にインターンシップを組み合わせることにより、「言語力」、「ロシアと日本についての教養・知識、経済についての知見」及び「調整力・行動力」を涵養し、貿易・金融、観光・交通、農水産業、製造業・IT、医療通訳を含む通訳翻訳、報道分野などの多様な分野で活躍する人材を養成する。

・ 本取組は、同窓会組織である「東京外語会」と、日露ビジネスで活躍する本学卒業生による「TUFSD日露ビジネスネットワーク」との協働のもとで実施する。

## 【交流予定人数】

	H29	H30	H31	H32	H33
学生の派遣	28	30	32	34	37
学生の受入	15	41	43	45	47

# 1. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【東京外国語大学】

【事業の名称】(選定年度29年度・タイプA(ロシア))

日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUFSS日露ビジネス人材育成プログラム

## ■ 交流プログラムの実施状況

・本事業初年度である平成29年度においては、学内外の事業推進体制を整えたほか、短期留学、長期留学及びインターンシップの3種の交流プログラムにおいて学生の派遣及び受入を計画どおり実施した。



“Two Cities - Two Universities Program”  
モスクワ大学の前で



横河電機モスクワで事業概要を聴く長期派遣学生  
(インターンシップ中の1コマ)



国際交流基金日本文化センター(モスクワ)の  
インターンシップで、小学生に本学の紹介をする派遣学生

## 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

- ・短期派遣: モスクワ大学とペテルブルク大学の2大学で学ぶ“Two Cities - Two Universities Program”と極東連邦大学(ウラジオストク)のロシア語コースへの参加を通じ、語学だけでなく、ロシアの文化や伝統についての知識を深めた。
- ・長期派遣: ロシア語検定試験(TORFL)準備科目などのロシア語の授業のほか、マスメディア論、ロシアの外交政策、法律体系や社会生活、経済等を履修した。また、多岐に渡る業種・類型のインターンシップへの参加が、日露ビジネスの現場を学び、学生各人が伸ばすべきスキルやコンピテンシーを認識する良い機会となり、高い目的意識を持って留学生活を送ることができた。

### ○ 外国人学生の受入

- ・長期受入: 日本語の他、日本の文化(伝統芸能、俳句)及び社会関連科目、経済を中心に学び、受入学生の我が国の文化・社会・経済についての理解が深まった。
- ・日本でのインターンシップ受け入れ先を精力的に開拓した結果、多様なインターンシップを提供できる体制が整った。

	H29		
	プログラム	実績	計画
学生の派遣	短期	23	13
	長期	16	15
学生の受入	短期	-	-
	長期	8	15

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・11月～3月にかけて6協定校を訪問し、本プログラムの実施について協議を行い、留学及びインターンシップの位置付け、派遣・受入の環境について確認を行った。
- ・第1回有識者会議及び外部評価委員会において、本事業に参加した学生の留学、ビジネス関連科目の履修、インターンシップの質保証を、参加証明書により担保する案が委員より提案された。会議での提案を踏まえ、外国語力基準(ロシア語・英語)、ビジネス関連科目の履修、インターンシップの質保証に繋がる見直しを行い、RJIプログラム制度(R=国際ロシア学、J=国際日本学、I=インターンシップ)の枠組みを策定した。

## ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

### (ロシア6協定校学生の受入)

・プログラム・コーディネーターと留学支援共同利用センターが協力しながら、受入の準備、到着してからのサポートを提供する体制を整えた。

### (本学学生の派遣)

- ・現地(モスクワ)コーディネーターを採用し、協定校の1つである国立研究大学高等経済学院に設置した Global Japan Office(GJO)をインターンシップ拠点として活用した。
- ・GJOコーディネーターが、現地での生活相談の窓口となり、派遣学生を支援した。

### (インターンシップのための環境整備)

- ・ロシアで本学学生にインターンシップ機会を提供するに当たり、ロシアの外部専門家から法的リスクについてのアドバイスをもらい、プログラムコーディネーター、TUFSS日露ビジネスネットワーク、現地コーディネーター間で共有した。

## ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- ・10月に本交流プログラムの広報・情報発信のためのホームページを、3カ国語対応で立ち上げた。本事業の活動状況、インターンシップ、ネットワーク等についての情報をリアルタイムで国内外に発信した。
- ・本事業のパンフレット、平成30年度TUFSSビジネスサマースクールのフライヤーを、3カ国語(日・英・露)、2カ国語(日・露)で作成し、6協定校及び企業・団体に配付した。これにより、日本国内外関係者の本事業への理解が深まり、事業への協力を得ることができた。

## ■ 特記事項

- ・ロシアビジネスについて豊富な知見を有し、本事業の趣旨に賛同した本学卒業生を中心とした「TUFSS日露ビジネスネットワーク」の支援により、特にロシアにおける多様なインターンシップの実施が実現した。平成30年度以降は、日本国内でのインターンシップにもその協力が見込まれている。
- ・モスクワ、サンクト・ペテルブルク、ウラジオストクに長期派遣中の学生16名に対し、計10の受入企業・団体において13回にわたり、多様なタイプのインターンシップ機会を提供した結果、派遣学生1人当たり3～4回、延べ49名が参加した。



本学卒業生(TUFSS日露ビジネスネットワーク構成員)による探択記念講演会